

平成22年度
宇都宮短期大学附属高等学校入学試験問題

国 語

注 意

- 1 監督者の「始め」の合図があるまでは、開いてはいけません。
- 2 試験時間は、板書されている時間割のと通りの50分間です。
- 3 問題数は大きな問題が5問で、表紙を除いて10ページです。
- 4 解答用紙は1枚で、答え方はマークシート方式です。
- 5 監督者の指示にしたがって、試験開始前に受験番号と氏名を解答用紙のきめられた欄に書き、さらに受験番号をマーク欄にマークしなさい。
- 6 答えは、解答用紙に記載されている〔解答マーク記入上の注意〕、および試験開始前に行われたマークシート練習プリントにしたがって、ていねいにマークしなさい。
- 7 試験中に質問があれば、手をあげて監督者に聞きなさい。
- 8 監督者の「やめ」の合図があったら、すぐやめて、鉛筆をおきなさい。

一

次のそれぞれの問いに答えよ。

問一

次の――線の、(1)、(2)は他と漢字の読み方が異なるもの、(3)、(4)は例文のカタカナと同じ漢字を用いるものを、それぞれ選べ。

- (1) ア 包装 | イ 衣装 | ウ 装置 | エ 装飾
- (2) ア 横暴 | イ 暴風 | ウ 粗暴 | エ 暴露
- (3) 今回の特別展には、かなり厳しいエツ覧規定があるそうだ。
ア 検エツ | イ 優エツ | ウ エツ楽 | エ エツ年
- (4) 検察が、独セン禁止法に抵触した行為にメスを入れるという。
ア 汚セン | イ セン伝 | ウ セン抛 | エ 変セン

問二

「瞬間」と成り立ちが同じ熟語は、次のどれか。

- ア 空虚
- イ 優位
- ウ 徹夜
- エ 損得

問三

次の慣用句の□に入る語は、後のどれか。

異彩を□。

- ア 放つ
- イ 描く
- ウ 選ぶ
- エ 試す

二

次のそれぞれの問いに答えよ。

問一

次の例文の――部と同じ意味の「でも」を含むものは、後のどれか。

- 「天気もよいことですし、散歩でもしませんか。」と、誘われた。
- 隣の家でも、最近になって犬を飼い始めたようですね。
- イ この住宅街は、比較的夜は静かでも日中は騒々しい所です。
- ウ 昼食後のデザートにあわせて、コーヒーでも飲みましょうよ。
- エ 外出していて留守なのか、何度呼んでも応答がないんだ。

問二

次の例文の□に入る語として適当なものは、後のどれか。

□ 信望の厚い部長が、約束を破ることはないでしょう。

- ア たとえ
- イ まさか
- ウ まるで
- エ なるべく

問三

次の文の中で、「補助動詞」を含んでいないものはどれか。

- ア 真っ白い入道雲が、青い水平線を悠々と横切っていく。
- イ この問題は、明日もう一度考え直してみることでしょう。
- ウ どんなに隠しても、すぐにウソだと見破られてしまった。
- エ 先刻すれちがった若者には、少しばかり心当たりがある。

四

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

取り入る人間、主体性のない人間といった否定的な響きをもつアイデンティティを、おいそれと受け入れるわけにはいかない。自分のそうした態度に対して、ある程度正当な意味を与えることができるような、何らかの説明を是非とも考案する必要がある。そうしないことには、居心地が良くない。

僕たちは、自分の心理的特徴や行動的特徴の理由を知りたい、そうした特徴を身につけるに至った事情を説明できるような情報がほしい、と思ったとき、しばしば自分の生育史をたどってみる。自分の生い立ちを振り返ってみると、たとえば小さい頃、友だちの気持ちをひどく傷つけてしまったことがあったことを思い出す。さらには、父親が自己主張のものをすごく強い人で、周囲の人たちの軋轢が絶えず、本人も家族もけっこう苦勞していたことを思い出す。これは使える」ということになる。

(a)、人の気持ちを心ならずも傷つけてしまった経験がトラウマになって、人の気持ちを傷つけないという思いが強くて、それで人の気持ちに過敏なところがあるといった説明を考案する。

(b)、自己主張の塊のような父親を身近に見ていて、自己主張しても結局だれのためにもならないし、みんなが気持ちよく過ごせるように、自分ではできるだけ自己主張を抑えて、人と人をうまくつなぐような、人間関係の潤滑油みたいな存在になりたい、と子ども心に思っていたといった説明を加える。

A そうなると、以前はよく見られたただの臆病や気の弱さから出ていたような行動や、単に人の気持ちをくすぐるようなお世辞が目に見えて減ってくる。

B いったんアイデンティティが定まると、日々の行動をとる際に、そうしたアイデンティティにふさわしい行動が選択されるようになる。

C いったんそうした説明を始めると、人の気持ちを傷つけないために、過度に人の気持ちを気遣う自分、自己主張を抑えてだれとでもうまくやっていける人間関係の潤滑油のような自分、といったアイデンティティが強く意識されるようになる。

D それに代わって、人の気持ちを心から思いやるような行動や、人と人をつなぐようとする調整的な行動に精を出すようになる。こうして自分の態度や行動に一本筋が通ってくる。

このように、自分でもよくわからないままに口にした苦しみが、いつのまにか自分の行動を方向づけることがある。

このようなメカニズムは、社会心理学でいう「自己呈示の効果」に通じるものがある。自己呈示とは、作為的に一定の自分を呈示することである。

(c)、ある実験では、知らない人に対して、自分がいかにも **I** な人物であるかのように装って対応する。また別の人は、

反対に、自分がいかにも外向的な人物であるかのように装って応対する。それぞれの人が、内向的あるいは外向的な人物としての自己呈示を行うわけだ。

このような自己呈示が、じつはその後の行動に影響を及ぼすことがわかっている。つまり、**II** 人物としての自己呈示を行った人は、この実験の後には、以前に比べて自分を内向的な人間とみなす傾向が強まっており、実際の行動にも **III** な方向への変化がみられたのだった。反対に、外向的な人物としての自己呈示を行った人は、前よりも自分を **IV** な人間とみなす傾向が強くなり、実際の行動も以前より外向的なものが目立つようになっていた。

人に対して「ふり」を装うことで、自己概念、つまり自分自身に対する見方が「ふり」を装った方向に変化する。人は自己概念に沿った行動を選択するので、実際の行動も、「ふり」を装った方向へと変化していく。

③ どうしてこんなことが起こるのか。

それは、**③** 僕たちに一貫性を求める強い欲求があるからだ。人前である行動を示したからには、そういう行動をとるような人物として自己定義しないことには、気持ちの収まりが悪い。

僕たち人間は、人と人との間に生きている。(d)、人に対して「自分はこういう人間だ」と宣言したからには、実際にそういう人間になっていかざるを得ない。相手に抱かせてしまったこちらのイメージを裏切るわけにはいかない。そんな形で、僕たちは、自分が人に対して発したメッセージに縛られている。そうした心理

メカニズムが働いているのだ。

こうしてみると、僕たちのアイデンティティ、僕たちが自分のものとして生きている自己物語は、けっして固定的なものなんかではなく、具体的な語りの場でのやりとりを通して、たえず変更が加えられていると言えそうだ。

自分の発した言葉を誠実に守ろうとする人もいれば、**④** 自分の言葉を忘れたかのように不誠実な態度をとる人もいる。だが、**④** 自分でいう自分の言葉に縛られるというのは、またちよつと違ったニュアンスのことをさしている。とつさに口をついで出た言葉に縛られたり、苦しまぎれの言い訳に拘束されたり、アドリブ的な語りにその後の人生が方向づけられたりする。語りのもつ力、アイデンティティに対して語りが発する威力のすごさは、**⑤** カウンセリングといった語りの場で人が生まれ変わることも明らかだ。

僕たちには、自分を首尾一貫した筋をもっている存在とみなしたがる傾向がある。日々の行動が支離滅裂に羅列(注5)されているのではなく、何らかの納得のいく説明がつくものであってほしいと願っている。日々の行動に、過去から現在に至る諸々の経験に、うまくつじつまの合う説明をつけてくれる物語筋、それを僕たちは切に求めている。

⑥ それが、自分がしと言われるものであり、自己物語の探求である。自己物語は、語りの場で探求され、綴つづられていくのである。

(えのもとひらあき 榎本博明「ほんとうの自分」のつくり方) から)

(注1) アイデンティティ他とはつきりと区別される、一人の人間の個性

(注2) 軋轢あつれき⇨仲が悪くなること。いざこざ

(注3) トラウマ⇨外的や内的の要因による衝撃的な肉体的、精神的ショックを受けたことで、長い間心の傷となってしまうこと

(注4) 作為的⇨無理に作った様子

(注5) 羅列らち⇨思いつくままに並べあげること

問一 「これは使える」ということになる。とあるが、この場合の①

「使える」の意味として適当でないものは、次のどれか。

ア 自分の心理的特徴や、日々の行動的特徴の説明ができるという
うこと

イ 自分の平素の言動を説明でき、正当な意味を与えられるという
うこと

ウ 自分は主体性のない人間ではない、という証明ができるという
うこと

エ 自分の生い立ちである生育史をたどることができる、という
うこと

問二 (a) から (d) に入る語の組み合わせとして適当なものは、次のどれか。

ア 「aさらには bつまり cゆえに dたとえば」

イ 「aつまり bさらには cたとえば dゆえに」

ウ 「aたとえば bゆえに cつまり dさらには」

エ 「aゆえに bたとえば cさらには dつまり」

問三 本文中の **A** から **D** の文を正しい順序に並べかえたものは、次のどれか。

エ	ウ	イ	ア
「 C	「 C	「 A	「 A
↓	↓	↓	↓
B	A	C	D
↓	↓	↓	↓
A	D	B	B
↓	↓	↓	↓
D	B	D	C
」	」	」	」

問四 ② 社会心理学でいう「自己呈示の効果」に通じるものがある。

とあるが、「自己呈示」の内容として適当なものは、次のどれか。

ア 他者に対してさまざまな「ふり」を装うこと

イ 自分自身に強い一貫性を追い求めること

ウ 他者に外向的なイメージを抱かせること

エ 自己自身の心理メカニズムを理解すること

問五

I から IV に入る語の組み合わせとして適当なものは、次のどれか。

- ア [I 内向的] II 外向的 III 内向的 IV 外向的
- イ [I 内向的] II 内向的 III 内向的 IV 外向的
- ウ [I 外向的] II 外向的 III 外向的 IV 内向的
- エ [I 外向的] II 内向的 III 外向的 IV 内向的

問六

③ 僕たちに一貫性を求める強い欲求があるとあるが、何と何との「一貫性」かの説明として適当なものは、次のどれか。

- ア 自己の行動と、自己の心理メカニズム
- イ 相手へのメッセージの内容と、相手が抱いているイメージ
- ウ 相手に抱かせたイメージと、自己の行動
- エ 自己定義と、相手が抱いているイメージ

問七

④ ここである……さしている。とあるが、「またちよつと違ったニュアンス」の内容として適当なものは、次のどれか。

- ア 語りの場で自分の発した言葉に責任を感じ、固定的な自己物語しか追い求められなくなる
- イ 自分の言葉にけつして変更を加えず、忠実に守り通すために「ふり」を装った方向に変化するという

ウ 自分の言葉にその後の自己の行動が完全に制限され、アイデンティティを見失うこと

エ 語りの場で無意識に自分が発した言葉に、現在の自己の言動を近づけようとする

問八

⑤ カウンセリングといった語りの場で人が生まれ変わるとあるが、「人が生まれ変わる」の内容として適当でないものは、次のどれか。

- ア 他者の言葉によって、自己の定義に一貫性を持ち続ける確固たる自信を得ること
- イ 自分が発した言葉にうまくつじつまを合わせようとする
- ウ 他者に抱かせた自分のイメージに近づこうとすること
- エ 自己を固定的なものとせず、やり取りの中で自己概念に変更が加えられること

問九

⑥ 自分がしとあるが、何を「さが」すのかの説明として適当なものは、次のどれか。

- ア これまでの自己概念に沿って語られた自己物語
- イ けつして揺らぐことのないアイデンティティ
- ウ 日々の行動や今までの経験を説明できる一貫性
- エ 今後の自分が支離滅裂にならないための物語筋

五

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

「広作」は中学を卒業後、鎌倉の老舗「萬總堂」で経師屋（襖や屏風を貼る職人）「和平」の元に弟子入りしている。

鎌倉へ来てからの一カ月はあつと言う間に過ぎた。「萬總堂」は老舗の店だけあって、人の出入りも多く、挨拶ばかりをしていた。広作はただ和平に言われたままに掃除、片付けを懸命にした。

「いいか、何をやるにしても丁寧でなくてはいけないぞ。この仕事は丁寧が一番だからな。目に見えぬところの丁寧さが、最後には表へ出て来るからな」

和平の言うことのすべてはわからなかったが、広作は言い付けを守って働いた。

ある夜、仕事を終え、風呂に入っていた広作は和平に仕事場に呼ばれた。和平は作業場の電灯を天井にむけて照らすようにして、床を木板で打った。灯りの中に埃が舞っていた。

「ほれっ、これだけの埃だ。明日はここで金粉を撒く作業をする。埃が混じっただけで色味が変わる。埃は（ a ）目に見えない。それに目をむけて掃除をしろさい」

そう言って、和平は自ら濡れ雑巾と乾いた雑巾を持って掃除のやり方を教えてくれた。

「自分を無器用だと思え。無器用な分だけ人の倍も丁寧に仕事をやれ」

自分は無器用なのだといい聞かせた。

ひと月が経った五月に、店の奥さんが一人の若者を連れて戻って来た。竜也^①だった。竜也は広作と同じ歳とは思えないほど如才なく、その上驚くほど手先が器用だった。仕事の飲み込みも早く、要領も良かった。一カ月もすると、竜也は訪ねて来た得意先の応対や仕事の電話を何年もいる職人のようにこなした。

——持って生まれてきたものが違うのだ。

広作はそう思い、竜也の分まで下働きに励んだ。

二年が過ぎ、竜也は建売住宅の仕事に一人で出かけるようになった。広作は相変わらず、出仕事は和平について行き、下仕事だけをさせられた。その年の技能コンクールで竜也は銀賞を受賞した。広作は優秀賞だったが、それは出品作のすべてに与えられる賞だった。

去年の冬、和平と竜也が仕事場で長く話していた夜があった。年が明けて竜也は広作に店を出て行くことを打ち明けた。広作は自分がとり残されたような気持ちになった。

夜の十時になって、サチコが小料理屋の席を立った。俺も早いから送って行くわ、真次^②が言つて、二人が広作を見た。俺はもう少し居るよ、と広作が言うと、じゃ送つてよ、真次君、とサチコが素っ気なく言つて、二人は店を出ていった。

客は広作一人になり、雨音が聞こえてきた。

「どうしたの？ 元気がないわね」

「べ、別に……」

「竜也君がいなくなつて淋しいわね」

「……」

「いい競争相手だったものね」

「そ、そんな、竜也の方が、俺なんかより（ b ）腕はいいし、奥さんも、そ、それから和平さんも気に入ってたんだ」

広作は怒つたように言い返した。

「奥さんはわからないけど、和平さんはあなたたち二人を別け隔てする人じゃないわ」

「ち、違うよ。女将おかみさんは、な、何もわかってないんだ。和平さんは竜也に教えても、俺には、今もまだ教えてくれない仕事しごとが、た、たくさんあるんだ」

広作のむきになつた言いように、女将が洗い物の手を止めて、広作を見つめた。^③広作はばつが悪くなつてうつむいた。

「それは、竜也君が店を出て行くのを和平さんが知っていたからよ」

「えっ」

広作は顔を上げた。^④女将は手元を見たままぼつぽつと話し始めた。

「三河屋みかわやさんのご隠居さんの襖ふすまはあなたがやったんでしよう。ご隠居さん、誉めていたつて話よ。萬總堂の職人の仕事はたわ。私、鼻が高かつたわ。この話を和平さんしたら、それは偶然しぜんだろうつて。誉めてたつて話、^⑤広作さんにはするんじゃないつて。和平さんは言つてたけど、少しは誉めてもらわないとね。やり甲斐がひ

がないものね。和平さんは自分のことも身内も（ d ）良く言う人じゃないから……」

三河屋の離れの襖の貼り替えは、去年の暮れのあわただしい時に急に入った。広作は、和平に呼ばれて、初めて出仕事を一人でした。

——いいか、離れは伏せつてらつしやるご隠居さんの部屋だ。普通の人が見えないところに目がいく。^⑥いつも以上に丁寧ていねいにやるんだぞ。

仕事の段取りを言われた時、和平に釘くぎを刺された。和平の言葉の意味が広作にはわからなかつたが、言われたとおり丁寧ていねいに仕事をし⑦てきた。

「そ、それでも俺には、鎌倉の他の経師屋の若い人が教えてもらつてることの半分も、教えてはくれない」

^⑧「和平さんはね、あなたが鎌倉に来てから深酒をしなくなつたのよ。あんなに好きなお酒を半分はんぶんに減へらしてんのよ。もう六十歳を過ぎた人が楽しみを我慢するつて大変なのよ」

「そ、それはどういふことなの？」

「それは広作君が自分で考えなさい。あなたは知らなくとも、皆があなたのことを見てくれることに少しは気付きづかなくちゃ……。サツちゃんだつて、そうよ。夕方からあなたをずっと待つてたんだから……。私も若い時はそうだつたけど、人間は一人ぼっちなんかじゃないのよ。あなたの目には見えないところで、あなたのことを見守まもつてくれる人は何人もいるのよ……」

広作は、その夜、店を出て浜を一人で歩いた。

雨は小降りになっていた。海は荒れていた。傘を閉じて歩くと、雨とも波のしぶきともつかぬものが頬に当たった。誰かに頬を叩か
れている気がした。
(伊集院 静「雨上がり」から)

問一 (a) から (d) に入る語の組み合わせとして
適切なものは、次のどれか。

- ア 「a」 なかなか b ずっと c さすがに d 決して
- イ 「a」 決して b なかなか c ずっと d さすがに
- ウ 「a」 さすがに b 決して c なかなか d ずっと
- エ 「a」 ずっと b さすがに c 決して d なかなか

問二 如才なく、釘を刺されたの本文中での意味の組み合わせとして
適切なものは、次のどれか。

- ア ① 分別があつて ⑥ 隙を狙われた
- イ ① 愛想がよくて ⑥ 心を読まれた
- ウ ① 手抜きがなくて ⑥ 話を聞かれた
- エ ① 気が利いて ⑥ 念を押された

問三 竜也の分まで下働きに励んだ。とあるが、その時の「広作」
の気持ちの説明として適切なものは、次のどれか。

- ア 「竜也」のような器用さはなくても、自分ができる下仕事で
「和平」に信用してもらいたい。
- イ 「竜也」にはとてもかなわないのだから、せめて「竜也」の
分まで努力して仕事を覚えよう。

ウ 「竜也」は自分を尊敬してくれているのだから、自分も精一

杯「竜也」の手助けをしよう。

エ 「竜也」と自分は生まれも育ちも違うのだから、同じ仕事で
比較されたくない。

問四 ③ 広作はばつが悪くなってうつむいた。とあるが、その理由と
して適切なものは、次のどれか。

- ア 「竜也」への劣等感やひがみを持っている自分自身が、急に
情けなくなつたから
- イ 自分が「和平」への不平を口にしたので、きっと女将にたし
なめられると思つたから

ウ 自分を氣遣つてくれる女将に対して、知らず知らず感情的に
なつた自分が恥ずかしくなつたから

エ 「竜也」に追い越された自分はふがいないが、女将の前では
何とか取り繕いたかつたから

問五 ④ 女将は手元を見たままぼつぼつと話しはじめた。とあるが、
その理由として適切なものは、次のどれか。

- ア 「広作」が感じているいらだちを少しでも取り除いて、これ
からも仕事に専念させてやりたいと思つたから
- イ 「広作」に話すべきかどうか迷いながらも、自分が知ってい
ることはやはり伝えなくてはならないと思つたから

ウ 「広作」が途中で修業をやめてしまわないように、自分が誉
めて自信を持たせてやりたいと考えたから

エ 自分が「広作」に話せば「和平」の思いを無駄にしてしまう
ことになるかも知れないと思い、ためらいを感じたから

問六 ⑤ 誉めてたつて話、……：……言つてたとあるが、その時の「和平」

の気持ちとして適当なものは、次のどれか。

ア 丁寧な仕事をするよう厳しく仕込んできた「広作」を、ここで調子づかせたくない。

イ 人一倍努力して成長してきた「広作」のことは自分が一番わかっているのに、他人に口を出されたくない。

ウ 実直な「広作」でも、誉められれば気持ちがうわついで後の仕事で必ず失敗するに違いない。

エ 何をやらせても不器用な「広作」だが、どんな仕事でも全力を尽くすよう諭したい。

問七 ⑦ 「そ、それでも……：……教えてはくれない」とあるが、その時の

の「広作」の気持ちの説明として適当なものは、次のどれか。

ア 「和平」の仕事に対する姿勢に疑問を感じながらも、誉められたい一心で言い付けを守ろうと思っている。

イ 「和平」の自分に対する期待が大き過ぎることに戸惑い、反発を抑えきれずにいる。

ウ 「和平」を尊敬しているながらも、自分は認めてもらえていないと感じて焦りや不満を抱いている。

エ 「和平」が自分をどう評価しているにしても、自分が「和平」の教えを請う気持ちに変わりはないと考えている。

問八 ⑧ 和平さんはね、……：……しなくなつたのよ。とあるが、その理由として最も適当なものは、次のどれか。

ア 辛い修業に励む「広作」を見てみると、自分だけ気晴らしするのは後ろめたいから

イ 「広作」を一人前の職人に育てようという、強い思いを持っているから

ウ 「広作」を預かることによって、やっと自分も仕事に誇りが持てるようになったから

エ 仕事を覚えようとする「広作」に、いつでも指導できるように準備していたから

問九 ⑨ 誰かに頬を叩かれている気がした。とあるが、その時の「広作」の気持ちの説明として適当なものは、次のどれか。

ア 「和平」の気持ちも考えず、身勝手に「竜也」をうらやましく思っていた自分を責めている。

イ 皆が自分を応援してくれていると知り、苦しくても仕事を続けて頑張ろうと思っている。

ウ 女将さんがなぜ自分にあんな話をしたのかが理解できず、困惑している。

エ 自分を見守ってくれている人の存在に気づかされ、目が覚める思いでいる。

